



カードを見ながら財布の準備をしているYさん。

とても集中しています👍

さて、何をしているところなのでしょうか・・・

詳細は2ページからご覧ください！！

## 目次

- |  |          |
|--|----------|
| ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 63」<br>～お財布ダイエット～ | <2～4ページ> |
| ・新任職員紹介  | <5ページ>   |
| ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記（編集部）                             | <6ページ>   |

## ～ お財布ダイエット ～

今回は、Yさんの外食時に使用する財布について、Yさんご家族とご本人と協力をして行った取り組みについて紹介させていただきます。ご家族との面談を行った際ヘルパーさんとの外食時に、本人の財布には大金が入っており、ヘルパーさんにご心配をかけることがあるのでは…というお話をお聞きしました。

Yさんは月に数回、ヘルパーさんとレストランで外食を楽しんでいました。コロナ渦で中止を余儀なくされましたが、現在はお母様と外食を楽しんでいます。

Yさんは外食の際、ご自身のお給料を財布に入れて持っていき、その財布から支払いをしています。ところが、3、4年前から徐々に、財布の中の千円札が増えてきました。取り組み開始時に見せて頂いた財布の中には千円札が43枚、合計4万3千円を持ち歩いている状態でした。

何故こんなにお金が増えたのか。お母様に尋ねると、外食後にお母様の財布に入っている千円札を、ご自身の財布に移し変えていることが判明しました。

毎月のご自身のお給料を財布に入れる→外食を楽しむ→帰った後、お母様の財布の千円札をご自身の財布に補充するという一連の流れの中、使った千円札の枚数よりも補充した千円札の枚数が多かった結果、財布の千円札が徐々に増えていき、現在に至っている様子でした。ちなみに支払った後にお釣りとして受け取った小銭は、ご自宅に置いてある、本人の小銭入れに全て入れて保管していました。

お母様からご自宅の様子を伺い、お札が増える理由の推測は出来ました。さらに実際のご様子を見せていただき、ご本人の行動の理由を知り、今後どのようにしていくのが良いかを探るため、職員が家庭に伺い、その場に同席させていただきたいとご家族に相談しました。自宅の玄関や居間と違い、生活の場に人が入るといのはなかなか受け入れがたいものです。しかもこのコロナ禍。しかしご家族は快く受け入れて下さいました。事前にご本人へ、職員がご自宅を訪問することを文章でお伝えしていた事で、自宅への訪問は抵抗ありませんでした。

自宅では、ご本人が使用しているカレンダーも見る事ができました。Yさんは、月曜日から金曜日までグループホームで生活をされ、週末にご自宅に帰る生活をされています。外食は不定期で、ご自身でカレンダーに1年分の外食に行く日と場所を決めて書き込みをされています。(右写真参照) 月末金曜日にわたげからお給料をもらい、次の月曜日にわたげを終了してから外食に行く、この日だけは固定されています。この固定日以外に、1か月に3回から5回外食に出かけるそうです。

1回の外食に使用する金額は、3千円から5千円程度(付添いのお母様やガイドヘルパーさんの分も財布から支払います)ですので、1ヶ月で9千円から1万5千円の外食費がかかる計算となります。これだけの金額となると、ご自身の給料だけでは賄えないので「千円札を財布に補充する」という事はご本人にとっては必要な事になります。また、財布からお金が減っていくことに不安を感じ、必要以上に千円札を補充してしまうのではないかと考えました。



ここまでの情報を基に、Yさんが、不安を感じることなく必要な金額を持って外出できるようにするには、どのような環境を作り、どのようにお伝えしたらよいのか、以下の三つの案を考えました。

- ① ご家族にも協力をしていただき、外食の費用を上乗せした金額をお給料としてお渡しする。
- ② ご自身の貯金を切り崩して外食をする。
- ③ お小遣いとしてご家族から外食費をもらう。

そしてご家族と相談した結果、③のお小遣いをもらうことにしました。Yさんには、お母様からお小遣いをもらうことで、【大量の千円札→外食→減った不安で必要以上に補充】といった行動をしなくても安心できるように、お給料日の日にお小遣いをもらうことで補充しなくてもいい方法をお伝えしました。財布に入っていた43枚の千円札は、Yさん自身が必要と思って貯めていた金額です。Yさんが不安にならないよう、給料日に43枚以上増やし、外食に行っても千円札が減っていない状況を作ります。

そして毎月のお小遣いの金額は毎月の外食の金額を考慮して、調整していただくようにお母様にも協力をお願いしました。

いよいよ、Yさんに向けてお伝えしていきました。まず、外食の際に持ち歩く用の財布を新調することをお伝えしました。現在使用している財布を「貯金財布」※1、新しい財布を「お出かけ財布」※2と命名。外出の際は「お出かけ財布」を使うことを説明し、新しい財布を職員と一緒に買いに行きました。お出かけが大好きなYさんは、落ち着いて買い物に出掛け、財布は現在使用している物と似たデザインをご自身で選び、購入されていました。新しい財布と現在使用している財布の交換を行う時は、再度ご家庭にも協力していただき、週末にご自宅にお邪魔させていただきました。

財布を取り換える前にご本人に向けて、以下のことを絵や写真を使ったカードを用いてお伝えしました。そして、実際に2つの財布をどのように使用していくのか、順番を示したカードを作成して説明しました。カードはお給料をもらった時の外食とそれ以外の外食の2つ準備をしました。ここではお給料をもらった時バージョンをご紹介します。

#### ※1【貯金財布】

今まで外食時に使っていた財布。この財布は持ち歩くことなく、自宅の箱の中に保管したままにします。この中には千円札が大量に入ったままの状態です。

#### ※2【お出かけ財布】

新しく購入した財布。今後は、この財布を使って外食に出掛けます。お財布には必要な金額のみを入れて外食に出掛けます。持ち運びが出来るようにお出かけ財布にはチェーンを装着しています。

#### 給料・お小遣いがあるバージョン

- ① 自宅に帰る
- ② シャワーを浴びる
- ③ コーヒーを飲む
- ④ 給料とお小遣いを貯金財布に入れる
- ⑤ 貯金財布を箱に片づける
- ⑥ 外食カードを出す
- ⑦ 貯金財布から外食カードの金額と  
同じお金を出し、お出かけ財布に入れる
- ⑧ 貯金財布を箱に片づける  
お出かけ財布をかばんに入れる



手順書の①から③は長年 Y さんが週末自宅に帰ってからの行動です。

④と⑤は月末にお給料、お小遣いをもらった時だけ使用します。月末以外の週は④と⑤を省いたバージョンになっています。なので月末以外の週は③から⑥に飛んで使用します。

④を行う時は、給料袋を手にした時に、母から手渡しで封筒に入ったお小遣いをもらいます。お小遣いをもらう事は事前に文章でお伝えをしました。

⑥の外食カード（右写真参照）は、貯金財布が入っている箱の横に設置しています。

⑦外食カードに記載されている金額と同じ千円札の枚数をお出かけ財布に入れ替えをします。

一連の流れを行いやすい様に、⑤から⑧は Y さんの自室の机の上で行うことにしました。

### 外食カード

現在 9 店舗の飲食店を利用。

それぞれで金額が違うため、お金の計算がしやすいように写真を利用して確認してもらうようにしました。



### 取組みを通して

外食 1 回目、2 回目の入れ替え時に立ち会いをさせて頂き、私の方がドキドキし成功させたい気持ちが前に出すぎて口を出しそうになりました。しかししっかり者の Y さんをご自分のペースで手順を確認しながら、正確に行い、成功することができました。

初めてお小遣いをもらう時は、険しい表情でしたが、封筒の中を確認すると表情が笑顔に変わり、

早足で自室に行き、貯金財布に入れることができていました。

一見「千円札にこだわっている」「千円札を集めないと気が済まない」と思われがちな Y さんの行動ですが、その裏には「外食の時に使う千円札を十分に準備して安心したい」「外食の時に使う千円札の必要枚数が分からない」といった Y さんなりの理由があり、その結果の行動として「千円札を自分の財布に必要以上に集めておく」ということに繋がったのだと思います。今回の取組みをしてからはお母様の財布の中を気にすることは全く無くなったそうです。そのような行動の変化から、取組みを行うことで Y さんが感じていた不安を解消することが出来たのではないかと、思っています。

### 取組みを始める前の財布



### 取組み後の財布



取組みを経て変わったこととして、これまではグループホームからご自宅に帰ると、まず始めにシャワーを浴び、コーヒーとおやつタイムを取ってから、外食で使うお財布を Y さんが決めた場所に準備する、という生活の流れがありました。長年この流れが変わることは無く、私達もご本人用の手順書はそのような流れで作成しました。1 回目は Y さんも手順書を頼りに順序通りに進めていましたが、2 回目の取組みの時には、帰宅後「あっお金やらなきゃ！」と言って自室に行き、お出かけ財布に必要な分のお札を入れて、一安心してからシャワーを浴びに戻りました。それからは毎週末の帰宅後は、まずお出かけ財

布の準備をしているそうです。これまで変えることの無かった生活の流れを、自ら変化させる Y さんの様子を見て、私達も嬉しくなりました。

初めのうちは、このお店では何枚お札が必要か、ということを示した「外食カード」を使用していましたが、回数を重ねるうちに内容は全て記憶し、今では使わなくても済むようになりました。そんなある日、先の予定としてカレンダー書いておいた外食先が「外食カード」の中にないと気付いた Y さん、お母さんに「お金、分からない!」と伝えることが出来たのです! その様子をお母様からご連絡いただき、職員が新たな「外食カード」を作り、Y さんにお渡すことが出来ました。

取り組みを通して様々な変化を見せてくれた Y さん、職員もたくさんの学びを得ることが出来ました。Y さん、これからもよろしくお願いします!

ニッ森 邦佳

## ★新任職員を紹介します★

こんにちは。昨年 10 月より厨房で週 2 回お世話になっております、**菱倉久美子**です。

主人と成人した息子と娘が居ます。

息子は昨年、東京へ独立したので今は 3 人と、今年 12 才になるオスのトイプードルと暮らしています。子供から手が離れてしまったので、今はこの愛犬にテレテレで、毎日癒されています。

趣味は、なんちゃって DIY で身の周りを生活しやすくする為に修繕したり作ったりと自己満足ですが楽しんでます。

あとは、娘の影響で 4 年前から K-POP に魅了されて、YouTube を観たり、ライブに行ったり、更年期の私の元気の源です。

昨年の 10 月より働かせて頂いているので、わたげのスタッフさんやわたげの雰囲気にも慣れて来て、嬉しく思っています。

厨房では、新しいスタッフが仲間入りして心機一転、皆様により一層愛をこめて(笑)、美味しい昼食を提供できるように頑張っていますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。



はじめまして。

8 月からわたげの厨房の非常勤として、週 3 回(月、木、金)働いております本間佐織と申します。

以前も厨房で調理員として約 10 年働いておりました。その時の経験を活かして、利用者さんに美味しいと喜んで頂けるように調理していきたいと思っています。

1 日も早く顔と名前を覚えて、美味しい昼食を提供できるように頑張ります。どうぞ皆様、宜しくお願い致します。



## たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474  
郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



## ボランティアさん 募集中

わたげ・ふぁず・こっとなはうすで、自閉症を伴う方々と一緒に何か活動してみませんか？

作業の検品、余暇活動の支援、清掃等

お手伝いをしていただけの方がいましたら、ご連絡ください！！

〈連絡先〉

わたげ 電話:046-844-0038 (担当:ひがしがわ)

E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp

ふぁず 電話:046-884-8040 (担当:さかい)

E-mail: faz2018@wing.ocn.ne.jp

こっとなはうす 電話:046-852-8355 (担当:すずい)

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp



## 編集後記

秋とは思えぬ暑さの後に急激な冷え込み。衣類や布団の衣替えが追い付かず、寒さで夜中に起きることもあります。ある夜、天気予報を見て「明日は寒いのかあ、やだなあ」とぼやいた翌朝のことです。冷え込んだ朝の通勤中、富士山の観えるスポットに差し掛かったところ、息を飲むようなきれいな富士山が姿を現しました。その時、『寒くなって空気が澄んできれいだな。寒いのも悪くない』と考える自分に気付きました。〇〇やだな、やりたくないなど思う気持ちは自然なことですし、いけないことではないと思います。しかし一方で、でもこんな良いこともあると考えると、自分自身の気持ちが楽になる、楽しくなるんだなと感じました。利用者のみなさんへの支援では、ご本人にとってやりたくない理由に寄り添いつつ、やりたくなる要素を提案していけるようにしたいと思います。

みなさんは、寒くなると楽しみなことは何ですか？

編集部 庄司

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21  
TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp